

# 第5回新町将来構想策定小委員会

## 会 議 資 料

日時：平成15年3月3日(月)午後2時10分から

場所：弓削町役場3階第1会議室

# 新町将来構想策定小委員会 第5回委員会次第

日 時：平成15年3月3日(月)

午後2時10分から

場 所：弓削町役場3階第1会議室

## 1.開 会

## 2.委員長挨拶

## 3.議 事

### (1)報告事項

住民アンケートの結果について . . . . . 1

4ヶ町村住民との意見交換会(ワークショップ)の結果について . . . . . 2

### (2)協議事項

新町将来構想・まちづくりの方針(案)について . . . . . 9

## 4.その他

## 5.閉 会

## ( 1 ) 報告事項

### 住民アンケートの結果について

#### 新しいまちの将来構想策定のためのアンケート調査実施概要

##### 1 . 調査目的

- ・ 合併を想定した場合の、まちづくりの意向調査
- ・ 合併論議が進みつつあることを広く住民に周知する。

##### 2 . 調査対象

平成 1 4 年 4 月 1 日現在で 4 ヶ町村の 1 8 歳以上の個人全数

##### 3 . 配布・回収計画

- ・ 各町村に調査票を発送し、各町村の実情に合わせて、配布・回収を依頼した。

##### 4 . 調査時期

- ・ 調査票発送時期： 1 月 1 7 日 4 ヶ町村発送
- ・ 調査票提出時期： 2 月 1 0 日締め切り

##### 5 . 集計分析

- ( 1 ) 第 1 次集計 ( 単純集計 ) 2 月中に集計、結果は小委員会時に提出予定
- ( 2 ) 第 2 次集計 ( 自由記載集計分析 ) 3 月中旬までに集計

##### 6 . 調査票及び設問内容

- ( 1 ) 調査のお願い及び記入上の注意

- ( 2 ) アンケート調査票

属性調査

合併を想定したまちづくりについて

自由意見

##### 7 . 配布・回収等の状況

町村名	配布者 ( 人 )	回収者 ( 人 )	回収率 ( % )
弓 削 町	3 , 0 1 9	2 , 9 4 1	9 7 . 4 2
生 名 村	1 , 8 6 1	1 , 6 6 6	8 9 . 5 2
岩 城 村	1 , 7 5 0	1 , 7 1 2	9 7 . 8 3
魚 島 村	2 8 3	2 7 4	9 6 . 8 2
合 計	6 , 9 1 3	6 , 5 9 3	9 5 . 3 7

弓削商船寮・生名村「海光園」入居者は、直接学校、施設へお願いした。

## 4ヶ町村住民との意見交換会(ワークショップ)の実施結果について

### 1. 実施目的

合併に対する認識を深めてもらう。  
将来構想に住民の意見を反映する。

### 2. 実施スタイル

- ・実施回数：町村を単位とし、各町村1回実施した。
- ・参加者数：1町村あたり20名程度
- ・参加対象者：各町村の住民、各種団体等各町村に人選をお願いした。
- ・ワークショップ形式の意見交換会とした。

### 3. 実施時期

町 村 名	開 催 日 時	開 催 場 所	参加人数
岩 城 村	1月28日(火) 午後7時00分	岩城村生活文化センター	24名
生 名 村	1月29日(水) 午後7時00分	生名島開発総合センター	21名
魚 島 村	1月30日(木) 午後3時00分	魚島村開発センター	16名
弓 削 町	1月30日(木) 午後7時30分	弓削町総合庁舎	21名

### 4. 意見交換内容

別紙資料のとおり

## 1-1 まちづくりに対する住民の考え

4ヶ町村の住民がまちづくりに対して抱いている考えを、ワークショップ、及びアンケート調査を通じて把握を行う。

ワークショップとは、ある目標のもと、参加者自らが主体的かつ積極的に集まり、協力しながら様々な活動（話し合い、構想・計画案の作成、実験・体験、勉強会など）を行うことです。

### 1) ワークショップ

#### (1) 目的等

今後のまちづくりに対する住民の自発的な意見や取組意向を本構想案に反映させることを目的に、4ヶ町村ごとにまちづくりに関するワークショップを実施する。

内容は、「医療・福祉」、「教育・文化」、「産業・観光」の3分野ごとに「まちづくりの問題点」、「まちづくりの取り組み方向と4ヶ町村間での連携の可能性」等に関して自由な意見交換を行うものとする。

#### (2) 活動概要

4ヶ町村ごとに以下のスケジュール等にてワークショップを実施した。

	弓削町	生名村	岩城村	魚島村
日程	平成15年1月30日	平成15年1月29日	平成15年1月28日	平成15年1月30日
場所	弓削町総合庁舎	生名島開発総合センター	岩城村生活文化センター	魚島村開発センター
参加者	21人	21人	24人	16人

参加者は事務局を除く人数



ワークショップ風景

### (3)活動報告（意見のまとめ）

「医療・福祉」、「教育・文化」、「産業・観光」のテーマごとに、4ヶ町村で出された意見のなかで複数の町村に共通する問題点や取り組み意向等を整理し、将来のまちづくりのビジョンにつながるキーワードを抽出する。

#### 医療・福祉

医療面では、不足医療科目を島外医療機関に頼らざるを得ないため、その足となる現状の船舶交通の利便性向上、又は架橋整備を強く望む意見が多い。また、救急医療が切実な問題となっており、現行の救急医療体制を少しでも改善し、患者の搬送時間を短縮する必要があるとする意見が共通していた。

福祉面では、現行の介護保険制度や高齢者福祉事業におけるハード・ソフト面の充実を望む声とともに、高齢者の増加等を受けて、きめ細やかな生活支援サービスを必要とする意見が多く、このために、訪問看護の実施や元気な高齢者を活用した地域での相互支援組織の形成やボランティア活動の支援等、雇用創出による地域産業の振興にも関わる提案がなされている。



#### キーワード：医療・福祉

**救急医療体制の充実（患者搬送時間の短縮）、架橋促進、海上交通の利便性向上、訪問看護の実施、元気老人の活用、地域福祉の相互支援組織の形成、ボランティア活動への支援**

#### 教育・文化

小中学校教育では、4ヶ町村ともに、児童・生徒の向上心、競争心が低下していること、学習・運動活動での組織化が困難なこと等、児童・生徒数の減少に起因する問題を抱えており、この改善策として、教育活動における島間交流の促進を強く求めている。

文化活動においても、担い手不足、伝統文化の継承が困難なこと等が指摘されており、4ヶ町村が協力し地域を盛り上げていくことが大切であるとする意見が出されている。このための条件に、架橋の促進、及び海上交通の利便性向上が必須と考えられている。

また、施設（ハード）面としては、身近な施設については、老朽化の改善やバリアフリー化等の意見がある一方で、既存施設を活用し、図書館等ではソフトを重点的に整備するべきといった意見もある。



#### キーワード：教育・文化

**4ヶ町村間の教育・文化交流促進、架橋促進、海上交通の利便性向上、バリアフリー化、情報通信基盤の活用、文化活動のソフト充実**

## 産業・観光

産業面では、4ヶ町村ごとに産業構造（農・工・商）が異なるため、全体として共通する意見は少ないが、農業では、農地の荒廃、後継者不足が問題視されており、観光面からも景観を損ねる荒廃地の改善に向け、一坪農園等による農地の流動化や荒廃農地の有効活用を求める意見が出た。また、企業の誘致等による島外からの収益拡大が難しいなか、既存の農漁業をベースとした自給自足の基盤づくりや、4ヶ町村内で相互支援的に物資を循環させるための地域通貨の導入や移動・流通の利便性の確保等が提案された。

観光面では、海の駅整備等の観光スポットの新規開発の意見がある一方で、既存の農漁業を活用しながら、島のPR促進やホスピタリティ（来島者をあたたかく迎える住民意識）の醸成等に取り組んでいくことが重要とする提案がなされている。



キーワード：産業・観光

既存産業の支援・活性化、農地の流動化促進・有効活用、自給自足社会、地域通貨の導入、海の駅の整備、島のPR促進、ホスピタリティの醸成、架橋促進、船舶交通改善

## ( 2 ) 協議事項

新町将来構想・まちづくりの方針(案)について

別紙資料によるコンサルたたき台の「理念」「ビジョン」「ビジョン実現の考え方」について、自由討論を行ないます。

## 2 まちづくりのプロジェクト案

### 2-1 まちづくりの考え方（案）

上島地域の抱える課題、及び合併による効果の発揮に向けた課題等を踏まえ、まちづくりの理念やビジョンを示す前提として、まちづくりの戦略的な考えを次のとおり設定する。

まちづくりの根底条件

生活水準を維持しつつ、上島に住み続けたい

まちづくりの戦略

段階	状況	イメージ
現状	<p>4ヶ町村間の移動は海上交通のみに頼っている</p> <p>4ヶ町村それぞれが、生活面で因島市などとのつながりが深い</p> <p>4ヶ町村間の交流は少なく、各町村で生活が独立している</p> <p>(因島市などとの合併は困難)</p>	
Stage-1	<p>&lt;新たな連携による生活の維持&gt;</p> <p>既存ストックを生かして4ヶ町村が役割（教育・運動・福祉等）を分担</p> <p>合併による財政基盤の確保により、4ヶ町村間の海上交通の利便性向上、及び架橋を実現させる</p>	
Stage-2	<p>&lt;交流を生かした地域の活性化&gt;</p> <p>近隣市町（因島市・瀬戸田町等）との連携強化による都市的サービスなどの享受</p> <p>しまなみ海道との連携強化による広域観光交流などの実現</p>	

将来： 因島市、瀬戸田町、伯方町等を含めた実体的生活・交流圏の形成（県際合併の実現）

## 2-2 まちづくりの方針（案）

前項のまちづくりの戦略における Stage-1 の着実な実現、及び Stage-2 に向けた期待を踏まえ、上島地区のまちづくりの理念（案）とビジョン（案）を次のとおり設定する。

“理念”とは、まちづくりを進めていく上で最も大切にする価値観（考え方）であり、“ビジョン”とは、将来におけるまちづくりのイメージを示すものである。

**理念 「地域の新たなつながりが支える元気暮らしの島」**  
～ *Communication Islands* (コミュニケーションアイランズ) ～

### ビジョン

どこにいても安心して暮らせる 健康・福祉の島づくり

子供から老人まで生きがいをもって暮らせる 教育・文化の島づくり

地域資源の活用とコミュニティに支えられる 産業振興の島づくり

島内・島外・新たなふれあいを育む 観光交流の島づくり

いきいきとした生活を支える 基盤充実の島づくり

### まちづくりの理念（案）とビジョン（案）

#### 1) まちづくりの理念（案）

今まで4ヶ町村でそれぞれ抱えていたまちづくりの問題等を、相互に協力しあいながら、改善していき、元気に暮らしていくことのできる島づくりを進めることが最も大切であるという考えから、以下の理念（案）を設定する。

**「地域の新たなつながりが支える元気暮らしの島～コミュニケーション・アイランズ～」**

4ヶ町村にとっての根本的な課題は、離島であることからくる日常生活の不便さが人口減少を加速させ、これに伴い、活力・住民意識の低下が生じていることにある。

ワークショップやアンケート調査結果からも、「担い手の不足」、「人的交流が少なく刺激が少ない」、「各種指導者の不足」等が、様々な分野で指摘されている。

これら人的資源の問題については、島外から人を呼び込むことを継続的に努力しつつも、まずは、今、島に住んでいる人が既存の地域資源を最大限有効に活用しつつ、互いに協力・刺激しあい、誰もがいきいきと暮らしやすい島づくりを行う必要があり、そのためには、島内のみならず、4ヶ町村間での良好なコミュニケーションの形成が前提となる。

## 2) まちづくりのビジョン(案)とビジョン実現の考え方(案)

まちづくりの理念(案)に基づく、ビジョンとその実現の考え方を次のとおり設定する。

ビジョン(案)	ビジョン実現の考え方(案)
どこにいても 安心して暮らせる 健康・福祉の島づくり	救急医療体制の充実 救急患者搬送方法の改善検討 生活支援のしくみづくり(協働による地域福祉の充実) 生活支援サービスの担い手となる組織の育成と支援
子供から老人まで 生きがいをもって暮らせる 教育・文化の島づくり	学校教育の充実 中学校の統合問題の検討 小・中・高教育の連携 文化・スポーツの振興 島間交流活動への支援 4ヶ町村合同イベントの検討
地域資源の活用と コミュニティに支えられる 産業振興の島づくり	農林漁業の振興 荒廃農林地の把握と管理 農地の有効活用(一坪農園整備、帰農者支援) 漁業環境の整備 コミュニティビジネスの促進等 起業支援 元気な高齢者の就業機会の創出 地域通貨導入の検討
島内・島外・ 新たなふれあいを育む 観光交流の島づくり	振興拠点の形成(海の駅) 農作物・魚介類等の共同販売 観光案内 島民交流サロン 島民活動拠点
いきいきとした 生活を支える 基盤充実の島づくり	架橋促進 海上交通の利便性向上 増便、料金低廉化

注：ビジョン実現の考え方は、4ヶ町村が合併する場合に、特に重点的に取り組むべきと考えられる施策等を示すものであり、すべての行政施策を説明するものではない。

：コミュニティビジネスとは、地域の人々が、地域に眠っている資源(労働力、原材料、技術力など)を活用して行う小規模ビジネスで、利益の追求に加え、地域の問題点の解決を目指すものです。コミュニティビジネスの活躍の分野は、生活密着型ビジネス(介護サービス、家事サービス、子育て支援など)をはじめ、地域振興(まちづくり、文化の継承・創造、国際交流など)や資源循環型社会の進出(環境・エネルギー・リサイクルの推進など)のほか、今後新たな産業の創出や産業創出支援などの分野での活躍が期待されています。

## 4 . その他